



幕開けを飾ったかぎやで風



子どもたちだけで演舞し、会場を沸かせた「四季口説」



ユーモラスな動きで会場の笑いを誘った「醜童」

～伝えよう 地域に根ざした伝統芸能の良さ～ をテーマに、10月12日、市きむたかホールで第14回ふるさと芸能デー「平安名区伝統芸能祭」（主催：市教育委員会、勝連平安名区自治会）が開催されました。

芸能祭では、数ある伝統芸能の中から、選びぬかれた12演目を披露。中でも、踊り手はもちろん、歌、三線、太鼓まで、子どもたちだけで演じる「四季口説」がはじまり幕が開くと、ひときわ大きな拍手が会場から沸き起こりました。

昼、夜の2回公演で約800名余の観客が市内外から訪れ、「あしびグニ 平安名」の伝統芸能を堪能していました。

第14回ふるさと芸能デー「平安名区伝統芸能祭」

「あしびグニ 平安名」  
伝統の芸を披露

## 12年に1度の「<sup>がん</sup>龕屋御願」

### 市勝連南風原区「龕屋御願」

12年に1度、子年の旧暦9月9日に行われる市勝連南風原区の「龕屋御願」が10月7日に行われました。のぼり旗を先頭に、締太鼓や鉦鼓、ホラ貝を鳴らす区民らが区内を練り歩いて道ジュネーを行ったあと、集落のはずれにある龕屋の前で棒術や琉球舞踊が演じられ、多くの区民で賑わいました。

南風原区の最初の龕屋は1730年前後の子年の9月9日に完成したと伝えられています。



三線や太鼓に合わせて、龕屋の前で披露された棒術

※龕とは、遺体を収めた棺箱を墓まで運ぶ朱塗りの輿

## 多彩な催し物で賑わう

### 第20回かりゆし県民フェスティバル開催

9月21日、「みんなで築こう豊かな長寿社会」をテーマに、第20回かりゆし県民フェスティバル（県社会福祉協議会主催）が、うるま市具志川総合運動公園で開催されました。

会場では健康・栄養相談や高齢者の作品展、舞台イベント、グラウンドゴルフ大会など様々な催しが行われました。手作り玩具コーナーでは、お年寄りがペットボトルを使った風車や昔ながらの竹ゼミなどの作り方を指導していました。また、10月1日から始まる赤い羽根共同募金運動を前に、そのPRも行われました。



子どもたちに大人気の手作り玩具コーナー